

## 大都会の母親の育児態度に関する研究

### 第1報：地域別にみた育児環境

研究第2部 高野陽  
佐久間治子  
国立公衆衛生院 藤村京子

### I 緒 言

高度な経済成長は我が国の社会構造に大きな変化をもたらした。急速に進む都市化、これに伴って国民の生活様式の変化、人口の流入流出による過密・過疎地帯の発生など、多くの問題が起っている。同時に情報化時代といわれる現代において、その中に生活する我々は次々に導入される情報にまどわされている感がなくはない。このような現代社会において、母子保健対策は如何にあるべきかを考えてみる必要がある。過密地帯には公害が

あり、それと反対に過疎地帯においては医療の貧困がみられる。この中において、乳児は如何なる状態におかれ、それを育てる母親は如何なる態度をもって接しているのであろうか。この乳児をめぐる社会環境を調査することによって乳児の保健指導対策の手段としたいと考えて本調査を企画した。今回は大都会に住む乳児をめぐる家庭環境について調査した。

### II 調査対象と調査方法

#### 1. 対 象

対象は、生後3か月の第1子の乳児をもつ母親で、東京、川崎市に住むものである。

東京の対象は二種類あり、一つは愛育病院産科にて出産の経験があり、その児は同院保健指導部に来所して身体発育状態、疾病異常の有無、栄養や養護の指導を受けている群（以下、愛育群と略す）、他方は、東京都渋谷保健所管内に住む母親（以下、渋谷群）とである。

川崎市の対象は、川崎市御幸保健所管内に住む母親（以下、御幸群）である。

それぞれの群の地域の概要は次の通りである。

渋谷群は、渋谷区全域にわたり、全対象人口は約25万人である。区内は都内有数の盛り場である渋谷駅前を中心とする商店街、千駄ヶ谷、神宮前、南平台、代官山などの代表的高級住宅地、笹塚、恵比寿のように商・工・住の混在している地域など、都市のあらゆる機能別にみた地域を全て含有するといってもよい。一般に住民の衛生健康についての関心は強く、官公私立の医療施設も多く、その利用度も高いと報告<sup>1)</sup>されている。

川崎市御幸地区は、かつて川崎中央保健所管内であっ

たものが、昭和42年に御幸保健所が新設されて分かれたもので、国鉄川崎駅の北側に拡る地域で、東は多摩川、西は横浜市鶴見区に接している。管内には、電機メーカー、鉱業、乳業などの大企業があり、いわゆる町工場も散在している。公営の団地も多くみられるが、この地域の住宅の主体は民間の借家または賃借アパートである。

（第1図参照）

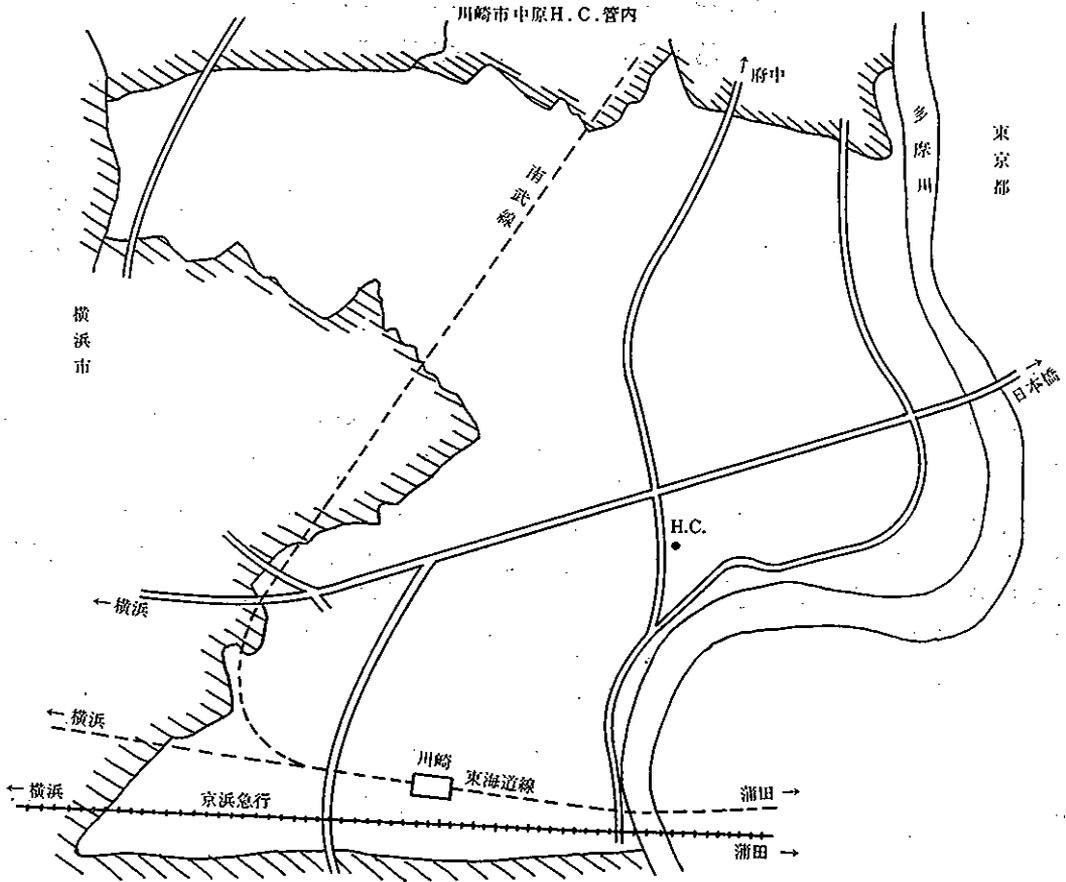
愛育群は、かつての調査結果<sup>2)</sup>からみて主として、東京山手地区の住民が多く、愛育病院所在地の港区、渋谷区、目黒区、世田谷区、大田区が多い。

#### 2. 方 法

これらの三群の母親に別表の如きアンケート用紙を配布し解答を得た。その回収は、愛育群は保健指導部受診当日（その日が各々の乳児の生後3か月の検診）、渋谷群、御幸群は3か月検診にそれぞれの保健所に来所した際に配布し、翌々日ツベルクリン反応判定日に回収した。

質問は、A……Fの6項目に分かれ、A：家族構成、B：乳児についての愁訴、C：栄養法、D：疾病、E：育児、哺育、F：衛生知識に関するものに分けた。

第1図 川崎市御幸保健所管内略図



(別表)

[アンケート用紙]

次のことにお答えくださるよう御協力をお願いします

( ) の中の適当な言葉の番号を○で囲み空欄には記入してください

A ご家族についておたずねします

- i) お父さんの年齢 ( ) 歳 学歴 (大、短大、専門、高、旧制中、新制中—卒業、中退)
- ii) お母さんの年齢 ( ) 歳 学歴 (大、短大、専門、高、旧制女、新制中—卒業、中退)
- iii) お母さんの職業 無、有 ( )
- iv) お年寄と同居していますか (1 していない 2 している)

している人は誰とですか

(1 父方 3 祖父 ( ) 歳 4 祖母 ( ) 歳 5 元氣 6 病気がち)

(2 母方

B 赤ちゃんのことで現在困っていることがありますか (1ない 2ある)

あれば次のどれですか

- ( 1発育が悪い 2肥りすぎ 3湿疹が多い 4よくせきをする 5頭がいびつ  
6脱臼が心配 7便が軟かい 8よく吐く 9おっぱい(ミルク)の飲み方が悪い  
10ミルク嫌いになった 11ミルクをのみすぎる 12指しゃぶりを  
13夜泣きをする 14夕方から夜にかけてぐずる 15抱きぐせがついた  
16その他( ) )

C 栄養法についておたずねします

i) 現在赤ちゃんの栄養法は何ですか

(1母乳 2混合 3人工)

ii) なぜi)のようにしていますか

a. 「母乳」の人

- ( 1母乳がよく出る 2経済的 3赤ちゃんが強くなる 4赤ちゃんの栄養法として最もよいと思う 5ミルクをのまない(ミルク嫌い)  
6その他( ) )

b. 「混合」「人工」の人

- ( 1母乳が出ない(出方が悪い) 2赤ちゃんの栄養法として最もよいと思う 3体重がよく増えて大きくなる 4お母さんの勤務のため 5おっぱいを与えたとお母さんのスタイルが悪くなる 6生まれたところで人工乳を使っていた 7母乳を飲んでくれない 8何となく  
9その他( ) )

iii) いつ頃からi)のようにしていますか

(1生まれた時から 2( )か月頃から )

iv) その時誰かに相談しましたか

- (1自分の考えで 2医者( )に 3保健婦、助産婦に 4知人に  
5家族に( ) 6その他( ) )

v) あなたの赤ちゃんはよその赤ちゃんに比べて

(1大きい 2普通 3小さい)

D 病気と主治医についておたずねします

i) 近所に小児科の医院または病院がありますか

(1ある 2ない 3知らない)

ii) 赤ちゃんだけのかかりつけの医者がありますか

(1いる——小児科医、他の科の医者 2いない 3まだ決めていない)

iii) 今までに赤ちゃんは何か病気をしましたか

(1いいえ 2はい(病名— ) )

「はい」と答えた人——その時どうしましたか

- (1医者( )の診察を受けた 2自宅にあった薬を与えた 3薬局で薬を買った)  
4そのままにしておいた 5その他( ) )

E 育児についておたずねします

i) 育児書をもっていますか

(1もっていない 2もっている)

a. 「もっている」と答えた人

何種類もっていますか ( )種類

著者は(1日本人 2外国の翻訳)

入手方法 (1自分で選んで 2他の人から)  
 入手時期 (1赤ちゃんの生まれる前 2赤ちゃんが生まれてから)  
 利害について (1役に立っていない 2役に立っている)  
 「役に立っている」人はどんな時に役に立ちますか

b. 「もっていない」と答えた人はなぜもっていませんか

- ( 1 育児は本を読んでも仕方がない 2 自分でやる自信がある )  
 ( 3 他の人の助言を受ける 4 医者、保健婦に相談する )  
 ( 5 その他 ( ) )

ii) 主に赤ちゃんを育てている人は

- ( 1 お母さん 2 おばあさん 3 他の家族 4 他人に預ける )  
 ( 5 保育園に預けている 6 その他 ( ) )

iii) 育児について誰かと意見が対立しますか

( 1 する 2 しない )

a. 「すると答えた」人は誰れと対立しますか

- ( 1 ご主人と 2 おじいさんと (同居中の・別居中の) )  
 ( 3 おばあさんと (同居中の・別居中の) )  
 ( 4 その他の人 ( ) )

対立したときはどうしますか

- ( 1 自分の思ったとおりにする 2 相手に従う 3 よいと思うことだけ従う )  
 ( 4 その他 ( ) )

b. 「お年寄」と同居している人は次のことに答えて下さい

「お年寄」と同居していることは赤ちゃんを育てることにとって

( 1 役に立たない 2 害となる 3 役に立つ 4 わからない )

c. 「お年寄」と一緒に住んでいない人は

赤ちゃんを育てるためにお年寄と一緒に住みたいと望みますか

( 1 望まない 2 望む )

F 次の間に答えて下さい (参考書などをみないで自分の考えだけで答えてください)

i) 母児血液型不適合という言葉を知っていますか

( 1 知らない 2 知っている )

ii) 交換輸血という言葉を知っていますか

( 1 知らない 2 知っている )

iii) 2500g以下の体重で生まれた赤ちゃんを何といいますか ( )

iv) 生後3か月で赤ちゃんの体重は生まれたときの何倍になりますか ( )

v) 赤ちゃんの首がすわるのは何か月ですか ( )

vi) 赤ちゃんの栄養法として何が理想ですか

( 1 母乳 2 人工 3 混合 4 わからない )

vii) 離乳は何か月頃からはじめるのがよいと思いますか ( )

viii) 鶏卵1個と牛乳180cc(1合)と、どちらが栄養がありますか

( 1 卵 2 牛乳 3 同じ 4 わからない )

ix) 生後12か月までに受けなければならない予防接種は何種類ありますか ( )

x) 赤ちゃん体操を知っていますか

( 1 知らない 2 知っている )

### Ⅲ 調査結果

#### 1. 回収率

渋谷群73.7%、御幸群74.7%である。

#### 2. 年齢と学歴

対象の母の年齢をみると各群の間に幾分の差を認めている。第1表に示す如く、最も多い20歳代の母は愛育群84.7%、渋谷群80.9%、御幸群87.5%で、10歳代の母は渋谷群0.5%、御幸群2.2%あり、30歳代以上のいわゆる高年初産の母は愛育群13.8%、渋谷群17.2%、御幸群9.4%で御幸群が最も少ない(P<0.05)。

対象者の夫、即ち乳児の父の年齢の分布を同じく第1

表に示した。愛育群の父が最も年齢が大きく、渋谷群、御幸群の順である。20歳代の父は御幸群が最も多く66.2%を占め、渋谷群57.0%、愛育群48.2%の順となっている。一方、30歳代は愛育群50.3%で最も多く、渋谷群及び御幸群41.2%である。

学歴について調べた。第2表にその結果を示した。学歴を大学、短大、専門学校、高校、旧制中(また女)学、新制中学に分けて検討した。父の学歴をみると、大学卒(短大、専門学校を含む)以上の学歴を持つものは、愛育群69.4%、渋谷群36.6%、御幸群14.8%で御幸群が有意(P<0.01)に少ない。逆に中学卒業までの義務教育のみの者は愛育群6.6%、渋谷群14.5%にすぎず、御幸

第1表 父 母 の 年 齢

		~19 %才	20~24	25~29	30~34	35~39	40~ 才%	N. A.	計
父	愛 育	人 % 0 (-)	6 (4.4)	60 (43.8)	54 (39.4)	11 (8.0)	4 (2.9)	2 (1.5)	137 (100.0)
	渋 谷	人 % 0 (-)	12 (5.4)	114 (51.6)	57 (25.8)	29 (13.1)	5 (2.3)	4 (1.8)	221 (100.0)
	御 幸	人 % 0 (-)	27 (21.1)	121 (54.1)	63 (28.1)	9 (4.0)	3 (1.3)	1 (0.4)	224 (100.0)
母	愛 育	人 % 0 (-)	18 (13.1)	98 (71.6)	13 (9.5)	5 (3.6)	1 (0.7)	2 (1.5)	137 (100.0)
	渋 谷	人 % 1 (0.5)	52 (23.5)	127 (57.4)	29 (13.1)	8 (3.6)	1 (0.5)	3 (1.4)	221 (100.0)
	御 幸	人 % 5 (2.2)	78 (34.8)	118 (52.7)	15 (6.7)	4 (1.8)	2 (0.9)	2 (0.9)	224 (100.0)

第2表 父 母 の 学 歴

		大 学	短 大	専 門	高 校	旧 制 中 女	新 制 中	N. A.	計
父	愛 育	人 % 93 (67.9)	2 (1.5)	0 (-)	29 (21.1)	0 (-)	9 (6.6)	4 (2.9)	137 (100.0)
	渋 谷	人 % 84 (28.0)	6 (2.7)	13 (5.9)	73 (33.0)	7 (3.2)	32 (14.5)	6 (2.7)	221 (100.0)
	御 幸	人 % 25 (11.2)	4 (1.8)	4 (1.8)	107 (47.7)	4 (1.8)	66 (29.4)	14 (6.3)	224 (100.0)
母	愛 育	人 % 42 (30.7)	26 (19.0)	7 (5.1)	51 (37.2)	1 (0.7)	6 (4.4)	4 (2.9)	137 (100.0)
	渋 谷	人 % 16 (7.2)	17 (7.7)	14 (6.3)	118 (53.5)	2 (0.9)	48 (21.7)	6 (2.7)	221 (100.0)
	御 幸	人 % 4 (1.8)	5 (2.2)	4 (1.8)	98 (43.8)	1 (0.4)	92 (42.0)	18 (8.0)	224 (100.0)

群は最も多く29.4%と有意差 ( $P < 0.01$ ) がある。対象者の学歴は、大学卒業は愛育群が最も多く御幸群が最も少なく、44.8%と5.8%で有意差がある。中学卒は御幸群が42.0%で最も多く、愛育群が4.4%で最も少なく有意 ( $P < 0.001$ ) である。

### 3. 職 業

父の職業は三群とも給料所得者が多く、愛育群は事務系及び専門管理職が多く、御幸群は工員及び事務系会社員が多い。渋谷群は、二群の混合型とみなしてよい。

対象者で職業を有するものは、第3表に示した如く愛育群12.4%、渋谷群9.0%、御幸群7.6%と愛育群がやや多い。愛育群にみられる職種は自由業、デザイナー、教員が多く、御幸群では店員、理容、美容師が多い。

### 4. 家族構成

対象となった家庭の家族構成を第4表に示した。祖父、祖母またその両方と同居している対象は、愛育群と渋谷群にやや多く御幸群は8.8%と少ない。同居している老人は父方の祖父母が多い。

また、現在祖父又は祖母と同居をしない核家族の対象者で、老人との同居を希望するか否かの質問に対して、「望む」と答えたものは愛育群26.8%、渋谷群32.6%、御幸群41.0%で御幸群が多い。

第4表 家族構成 (核家族か否か)

	同居有	父 方			母 方			同居無	N. A.	計
		祖 父	祖 母	祖父母	祖 父	祖 母	祖父母			
愛 育	人 % 39 (28.5)	4 (10.3)	9 (23.1)	10 (25.6)	2 (5.1)	5 (12.8)	5 (12.8)	98 (71.5)	0 (—)	137 (100.0)
渋 谷	人 % 47 (21.3)	1 (2.1)	8 (17.0)	14 (29.8)	1 (2.1)	5 (10.6)	7 (14.9)	169 (76.5)	5 (2.2)	221 (100.0)
御 幸	人 % 19 (8.5)	3 (15.8)	10 (52.6)	0 (—)	1 (5.3)	5 (26.3)	0 (—)	198 (88.4)	7 (3.1)	224 (100.0)

第5表 主なる哺育者

	母	祖 母	他の家族	他 人	保育園	その他	N. A.	計
愛 育	人 % 121 (88.3)	6 (4.4)	0	0	1 (0.7)	0	9 (6.6)	137 (100.0)
渋 谷	人 % 210 (90.9)	11 (4.9)	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	2 (0.9)	5 (2.1)	221 (100.0)
御 幸	人 % 200 (89.3)	8 (3.6)	0	0	1 (0.4)	2 (0.9)	13 (5.8)	224 (100.0)

第3表 母の職業

	有	無	N. A.	計
愛 育	人 % 17 (12.4)	115 (83.9)	5 (3.7)	137 (100.0)
渋 谷	人 % 20 (9.0)	195 (88.3)	6 (2.7)	221 (100.0)
御 幸	人 % 17 (7.6)	199 (88.8)	8 (3.6)	224 (100.0)

### 5. 主なる哺育者

第5表に示した通り主なる哺育者は、三群とも母親 (対象者) であり、次いで祖母である。保育園に預けているものは各群とも1例 (0.4~0.7%) にすぎない。

### 6. 栄 養 法

生後3か月現在の栄養法について調べた結果が第6表である。母乳栄養は三群とも30%に満たない。一方、人工栄養は三群とも50%以上を占めており、三栄養法とも、三群間に有意差を認めていない。

母乳栄養を行なっているものに、母乳栄養をしている理由を質問して得た解答の結果は、「母乳の分泌良好」が第1位で、次いで「最良の栄養法」と答えたものである。この二つの解答は三群間に差はない。「経済的」と

第6表 栄養方法

	母乳	混合	人工	N. A.	計
愛育	人 % (24.8)	34 (24.8)	69 (50.4)		137 (100.0)
渋谷	人 % (27.1)	60 (19.5)	43 (52.5)	2 (0.9)	221 (100.0)
御幸	人 % (24.5)	55 (21.0)	47 (54.5)		224 (100.0)

答えたものが渋谷群9.7%、御幸群8.0%で愛育群の3.2%より多い。

また、混合、人工栄養を行なっているものでは「母乳分泌不良」を挙げているものが三群とも最も多く70~80%を占めているが、「母の勤務のため」というのが愛育群5.5%、渋谷群6.1%、御幸群2.8%となっている。また、「生まれた病院で人工、または混合栄養であったから」、「何となく」という答が渋谷群及び御幸群に10%前後みられた。

現在の栄養法を行なうために誰かに意見を求めたかという質問に対する解答で、「自分だけの考えで」というのが最も多く、愛育群54.8%、渋谷群44.8%、御幸群48.2%となって三群に差はない。相談した相手でも多いのは医師で、愛育群27.8%、渋谷群27.2%、御幸群27.2%で全く差はないが、保健婦または助産婦が相談相手となったのは、愛育群4.8%、渋谷群11.9%、御幸群15.2%となっており差がみられる。また、家族が相談相手になったのは愛育群11.1%、渋谷群6.8%、御幸群7.3%と愛育群が多い。

### 7. 乳児の体格と疾病

自分の子どもの体格が他の乳児と比較して大きい小さいかを答えさせた。結果は第7表にみられる通り三群間に差はなく、各群とも「普通」と答えたものが最も多い。

第8表には調査当日までに罹患した疾病の状況を調べた結果であるが、愛育群が最も少なく32.2%、御幸群が最

第7表 乳児の体格

	大きい	普通	小さい	N. A.	計
愛育	人 % (36.4)	50 (45.3)	62 (13.9)	6 (4.4)	137 (100.0)
渋谷	人 % (38.5)	85 (50.7)	112 (10.4)	1 (0.4)	221 (100.0)
御幸	人 % (37.1)	83 (48.7)	109 (12.9)	29 (1.3)	224 (100.0)

第8表 罹病状況

	罹病 ⊖	罹病 ⊕	N. A.	計
愛育	人 % (64.2)	88 (32.2)	44 (3.6)	137 (100.0)
渋谷	人 % (58.8)	130 (38.9)	86 (2.3)	221 (100.0)
御幸	人 % (54.0)	121 (44.2)	99 (1.8)	224 (100.0)

も多く44.2%となっている(0.05 < P < 0.1)。最も多い疾患は「感冒」である。

### 8. 育児書の利用状況

情報化時代の昨今、育児に関する情報は多くの方法によって得られるが、そのうち最もよく利用されているとみなすことができるのが育児書であるが、その育児書の利用の状況について調査した。第9表に示した如く何らかの育児書といえるものを持っているものは、愛育群が最も多く82.5%、渋谷群が73.3%、御幸群最も少なく59.8%となっている(0.01 < P < 0.05)。育児書の数も一種類だけでなく2~3種揃えているものもあり、最高は5種類もっているものがあつた。2種類以上もっているものの多くは、そのうちの1種類を外国人の著書で和訳したものを持っているものが多く、外国書の翻訳物の普及率は、愛育群が38.8%、渋谷群16.2%、御幸群7.5%と愛育群が多い(0.01 > P)。また、育児書の入手動機については自分で求めたものが愛育群51.3%、渋谷群63.3%、御幸群59.7%となっており、愛育群がやや少ない。入手時期を出産前と出産後に分けてみると、妊娠中に既にもっていたものは、愛育群63.4%、渋谷群67.4%、御幸群65.7%で三群に差はなく育児について早期から育児書による知識の導入がなされていることがわかる。

育児書の利害については、「役に立っている」と答えたものは、愛育群88.0%、渋谷群92.9%、御幸群85.1%となっており渋谷群にやや多いが有意差ではない。月齢

第9表 育児書の普及

	有	無	N. A.	計
愛育	人 % (82.5)	113 (14.6)	20 (2.9)	137 (100.0)
渋谷	人 % (73.3)	162 (26.7)	59 (-)	221 (100.0)
御幸	人 % (59.8)	134 (39.3)	88 (0.9)	224 (100.0)

毎の発育状況、栄養法、疾病異常の探知、泣いたりぐずったりして困った時などに参考にしたと答えている対象が多かった。

一方、育児書を所有していないものに対して、所有していない理由について質問した。育児上問題が起ったと

きには、「医師または保健婦に相談する」と答えたものが最も多く愛育群52.6%、渋谷群44.4%、御幸群52.6%となっており、「別の人から助言を得る」と答えたものが渋谷群に多く33.3%、御幸群17.9%、愛育群5.3%となっており有意に愛育群が少ない ( $P < 0.01$ )。

#### IV 考 按

大都会に住み第1子で生後3か月の乳児をもつ母親を対象にアンケート用紙を配布して育児について種々の質問を行ない、その解答から母親の育児態度を分析し保健指導上の問題点をみつけようと試みた。

先に書いたように核家族の増加が著しい東京及び川崎市からそれぞれ一地域を選び、対照の意味で特定地域ではないが、社会経済的、社会階層的に見て殆んど一定しているとみなしてもよい愛育病院保健指導部来所の母親をも対象とした。

対象者の年齢、学歴にも明らかな地域差がみられていることからこれらの質問に対する解答はそのまま地域差とみなすと同時に学歴差とみなしてもよいと考えてもよいのではなかろうか。高等教育を受けているものが多い愛育群と義務教育だけで終了しているものが多い御幸群とはおのずからその育児態度、育児意識に差がみられるのは当然であり、衛生健康面の関心度もかなりの差がみられている。また、対象者の夫(乳児にとっては父親)の年齢、学歴にも三群間に差がみられている。学歴の差は必ずしも経済的な差を意味するものではないが、父の職業の差からみてもある程度判るように、育児態度、育児意識には社会経済的因子が大きな影響を与える要因であることはいうまでもない。

家族構成をみると、川崎市御幸地区には核家族が多いことがわかる。この核家族の増加が問題である。浜本は、核家族の増加によって育児経験のない若い母親がいろいろと迷っていると述べているが、ある程度の医学的知識は発達した情報文明から得ることができるから余り心配する必要はないという意見を述べている学者もいる。しかし、いかに知識を得ることができてもそれを正しく理解する能力を持たぬ以上問題にはならぬと考えられる。この御幸地区は核家族の増加に加えるに、学歴の差、社会経済的差が他の二群に比べて大きいことからくる弊害がみられることが想像される。必ずしも育児書が正しい情報提供物とはいえないが、この御幸群では育児書の普及度も低いのである。ここに受診率の差として現われているといっても過言ではないと考える。このような地域にこそきめ細かく正しい保健指導を行なえるような機

関の設立が望まれるのではなかろうか。

御幸地区の住宅について御幸保健所の協力を得て調べたが、約80%が民間の賃貸アパートに住んでおり、間取りも6畳と台所というものが大半を占めていた。「専用の便所がある」というものより「共同の便所」が多い結果を得た。当然浴室のあるものが少なく銭湯を利用している。このような住宅事情の下の育児についての正しい指導は如何にすべきであろうか。罹病率が高いこともこの住宅事情がある程度反映していることは当然であろう。

栄養法については、最近母乳栄養児の減少が多くの報告<sup>9)</sup>でみられるが、今回の調査で三群に全く差がみられなかったことは注目に値する。愛育病院は、妊娠中の母親学級や分娩後の新生児室入院中においても母乳の確保に努力していることは以前の調査<sup>6)</sup>でも確認されているのであるが、今回に関しては他の二群と全く差がない。これは如何なる理由によるものであろう。母乳栄養児の減少の理由として考えられるものに、母親の母乳に対する認識の問題、母乳の確保に対する努力の欠如、母親で勤労者が増加したこと、安易に人工乳が入手できる時代になっていること、母親の疾病異常などが挙げられる<sup>9)</sup>。しかし、今回の調査では、勤労婦人は8.0~12.5%にすぎず、母乳栄養でない人でこれを理由にしているのは2.8~6.1%である。母乳栄養でない理由の最多は、母乳分泌不良であったが、宮崎<sup>6)</sup>がいうように新生児期に母乳確保に努力すれば80%以上が母乳栄養を確立できたという調査からみて、今回の対象者の努力はどの程度であったか疑問が残る。また、母親ばかりでなく医療従事者にも安易に入手できる人工乳に対する考え方をもう一度見直す必要があるのではなかろうか。これは、生まれた病院で人工栄養だったからという解答が多かった点からみてもわかる。

育児、哺育に関する知識を得る手段としての情報文化の最も一般的なものである育児書について調査したが、育児書の普及は地域によってかなり差がある結果を得た。核家族が多い地域でありながら育児書を利用している母親が少ない点に注目したい。育児上困難に遇った場

合には、医師及び保健婦や助産婦に意見を求めると答えているが、果してどの位活用されているか問題である。育児書の入手動機に関する調査で、妊娠中から育児書を持って育児についてかなり関心度が強いことを示しており、多くのものが育児書が役に立ったと答えていることからみて育児書は情報獲得の手段として役割は大きいことがわかる。

勤労婦人に関する関<sup>9)</sup>の調査をみると、女子就業者中有配偶者の占める割合は、全国平均52.2%であるが、妊娠、出産そして更に育児という条件が加わることによって多少の変化がみられる。一方、我々の対象で職業のあるものは10%前後である。

## V 結 び

東京、川崎市の第1子の3か月児を持つ母親を対象にして育児態度をはじめ育児環境についてのアンケート調査を行ない二、三の見地を得た。

1) 乳児の父の年齢は、川崎御幸地区が若く、愛育群は年齢が大きい、また、同様のことが母の年齢についてもいえる。両親の学歴も、愛育群は大学卒業などの高等教育を受けたものが多く、御幸群は義務教育のみ終了者が多く、渋谷群はその中間である。

2) 乳児の母で職業を持っているものは、愛育群が最も多く、次いで渋谷群、御幸群となっている。

3) 祖父・祖母との同居は御幸群が最も少ない。

4) 非同居群のものうち、同居を希望するものの割合は、御幸群が最も多いが、愛育群が最も少ない。

5) 母乳栄養を3か月まで続けたものは、三群とも30%以下である。

6) 乳児で調査時まで何らかの病気にかかったものは、御幸群にやや多い傾向がある。

7) 育児書をもっているものは、愛育群が最も多く、御幸群が最も少ない。

以上、大都會に於ける乳児をめぐる哺育環境の差を地域別にみたが、大都會における母子保健のより以上の充実が望まれる。

稿を終るに当り、協力頂いた東京都渋谷保健所、川崎

家族形態を調べた同じく関の報告によると、一般にいわれるようにたしかに核家族化への傾向が著しい。これは我々の調査からもうなづける。老人との同居は俸給生活者より自営家族にはるかに高いという関の報告からみて、我々の対象、特に御幸群においては自営業家庭は非常に僅かであった(8.1%)ことから判る。

以上、地域別に3か月児をめぐる哺育環境をみてきたが、過密地帯の二大都市においても地域により差は大きいものがあることが判明し、その母子保健指導のより以上の必要性を痛感した。

また、地域差ばかりでなく、母親の学歴、母親の年齢などによる育児態度の追究を行う予定である。

市御幸保健所の職員の方々に感謝いたします。

## 〔文 献〕

- 1) 渋谷保健所：事業概要昭和44年版、1970
- 2) 松島富之助、羽室俊子、宮地文子、三沢貞子、湯浅玖子、吉本弥生、白石敏江：Follow-up Studyによる乳児保健指導例、日本総合愛育研究所紀要、第2集 81~89、1966
- 3) 松島富之助：母乳栄養の変遷、第2回母子保健学研究会演題および要旨、日本母子保健学研究会会誌 1(1)、2(1)合巻号18、1969
- 4) 宮崎叶、佐野良五郎、小林治夫：母乳分泌状況に及ぼす諸因子の分析について、日本総合愛育研究紀要第2集 63~68、1966
- 5) 宮崎叶、佐野良五郎：早期新生児期に於ける母乳確立の問題点、日本総合愛育研究所紀要第2集 69~70、1966
- 6) 宮崎叶、高橋悦二郎、川面美智：新生児栄養の実態、小児科臨床 17(8)993~998、1964
- 7) 松村忠樹編：新生児の栄養代謝、155~162、医学書院、1967
- 8) 関清秀：都市の家族、誠信書房、1966